

広報たるみず

コスト 44円

TARUMIZU

目指すは、さらりと楽しく読める自治体広報誌

鹿児島県垂水市
2017年（平成29年）
6月1日発行 / No.74

6

特集

The New Stage

健康長寿と子育て支援は新しいステージへ



The New Stage

健康長寿と子育て支援は新しいステージへ

4月発行の広報誌で「施政方針」についてご紹介いたしました。その中で、鹿児島大学病院副院長の大石充教授と連携した「健康長寿・子育て支援」に関する課題解決の取組を行うことをご紹介しています。まさに今、垂水市をフィールドとした新しい取組が行われようとしています。今月の特集は、その取組の方向性や概要についてご紹介してまいります。

課題解決のため、 これまでとは異なる アプローチを求めて

平成28年夏、尾脇市長は、鹿児島大学医学部の大石充教授のもとを訪れました。目的は、「健康長寿（医療・高齢者対策）」や「子育て支援」を更に促進するために、専門的見地からのご意見をいただくためです。本市医療の課題や少子高齢化の現状などについて説明を行い、引き続き意見交換を重ねていくこととなりました。その後、意見交換を重ねる中で、大石充教授より、「垂

水市が抱える少子高齢化の課題は、日本全国共通の課題」、「大学側からはデータ分析に基づいた最適なアプローチを提案でき、介護費用等の適正化が期待できる。」などのご意見をいただき、行政と医療が一体となって「健康長寿・子育て支援の新しいモデルケースの構築」を進めていくこととなりました。

鹿児島県が今年2月に発表した「県人口移動調査（平成28年報）」によると、垂水市は、県内全市町村の中で高齢化率（全人口で65歳以上が占める割合）が県内で3番目に高く、年少人口割合（全人口で15歳未満が占める割合）が県内で2番目に低いという状況であり、これは、県内でも少子高齢化が進展している自治体であると言えます。少子高齢化は全国的な課題であり、近い将来には、現在の垂水市の人口構成に近づく自治体が増加する傾向にあることが予想されます。垂水市をフィールドに「健康長寿・子育て支援の新しいモデルケースの構築」をスタートし、発信することが今後重要となります。

意見交換

「元気な垂水づくり」実現のため、尾脇市長から大石教授へアプローチ

- ① 市民の皆さんの満足度をもっと向上させたい。
(生涯を通じた健康長寿・子育て支援の充実)
- ② 医療・介護費用の適正化を図りたい。
- ③ 医療・介護の人材を充実したい。
- ④ 美味しい食材、魅力的な観光地などの地域資源を活用したい。



尾脇市長



大石 充 教授

鹿児島大学心臓血管・高血圧
内科学教授、鹿児島大学病院
副病院長兼病院長補佐

- ① 垂水市が抱える少子高齢化の課題は、日本全国共通の課題。
- ② 大学側からはデータ分析に基づいた最適なアプローチを
提案でき、介護費用等の適正化が期待できる。
- ③ 垂水市で実施することが、医療・介護職からの注目を集め、
人材充実にも寄与するのでは？
- ④ 垂水市の地元特産品を健康食として活用できる可能性は
十分にあると思います。

共有した現状と課題

- ① 日本が抱える少子高齢化への新たな取組が必要である。
- ② 魅力ある資源（食・人・観光など）を積極的に活用していくべきである。

共同で目指す方向性

健康長寿・子育て支援の新しいモデルケースの構築

行政や医療を始めとする様々な専門家（多職種）が力を合わせて、みんなで楽しく健康寿命を延ばすことができる元気なまちを作り上げるためのモデルケースの構築を行ってまいります。

「健康長寿・子育て支援の新しいモデルケースの構築」を進めて行く中で、中心的役割を担っていただくのは、先にご紹介した鹿児島大学病院副院長の大石充教授です。垂水市では、計画推進にあたり、専門的見地からの助言などを担う「垂水市スーパーバイザー」を大石充教授に委嘱しました。

大石教授からのご挨拶

垂水市の皆さん、こんにちは。鹿児島大学病院副院長の大石充と申します。垂水市には、豊かな食材や温泉などの資源がたくさんあり、地理的にも県内で人口の多い3つの自治体に囲まれており、大変魅力のある自治体だと思います。また、研究者としての視点から見ても人口規模、高齢化率など高齢者向けの対策を行うのに最適な環境であると考えております。こ

れから垂水市で、元気で長生きできる高齢者が増えていくために、25年以上にわたり、楽しく健康づくりができる方法や環境づくりのお手伝いをさせていただけます。具体的には、医療の

けが頑張ってもうまくいませせん。市民の皆様もご自身の健康づくりと考えると、これから始まる事業へ積極的にご参加いただきたいです。また子育て支援の分野についても、垂水市にアド



プロジェクトの 中心的役割を担う スーパーバイザー

大石 充

鹿児島大学心臓血管・高血圧内科学教授
鹿児島大学病院 副院長兼病院長補佐

分野だけでなく、運動、栄養、歯科、お薬、データの分析・評価などの専門家によるチームを編成し、トータルとしての「健康づくり」を考え、実践していきます。そのためには専門家だ

バイスをしてまいります。私は、「今、垂水市にいる人達の幸せを考え、若者がベストを尽くせる環境づくり」が必須だと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

おいしい みつる

Profile 1963（昭和38）年愛知県岡崎市生まれ。愛知教育大附属岡崎中学、岡崎高校を経て、平成2年に大阪大学医学部を卒業。大阪大学第四内科に入局し、循環器疾患のダイナミックな変化に魅力される。平成25年2月に、拠点を大阪から鹿児島に移し、鹿児島大学心臓血管・高血圧内科学教授に就任。平成26年4月に鹿児島大学病院病院長補佐、平成27年4月に鹿児島大学病院副院長に就任し、平成29年4月に垂水市より垂水市スーパーバイザーを委嘱される。

平成 29 年 4 月 30 日 / 垂水市スーパーバイザー委嘱式

Press coference

委嘱式 & 記者会見の様子 【4月30日（日）午前9時30分～垂水市文化会館】



■ 垂水市スーパーバイザーとは？

Point 垂水市スーパーバイザーとは、「垂水市の健康長寿・子育て支援」をテーマとしたモデルケース構築の事業計画に向けて、専門的見地からの助言を行う役割を担っています。そのため健康に関するさまざまなデータを収集・分析し、垂水市の健康長寿・子育て支援に最適な取組を提案するとともに、具体的な取組の実践まで関わっていただきます。

健康について考える 講演会を開催しました

スーパーバイザー委嘱式後には、大石教授による記念講演会を開催し、「豊かな老後のために今できること」をご講演いただきました。会場には、約700名の来場があり、生活の中で簡単に実践できることを、笑いを交えながら、わかりやすくお話していただきました。また、大石教授に引き続き、鹿児島大学医学部保健学科学療法学専攻基礎理学療法学講座の牧迫飛雄馬教授による「介護予防・認知症予防のために今からできる運動」が行われ、講演を聴きながら、イスに座ったままできる運動を教えていただきました。牧迫教授は、運動の分野の専門家として、今回進めているプロジェクトの一員としての研究を予定しています。このように各分野の専門家の先生方にプロジェクトに関わっていただき、トータルとしての「健康づくり」を皆様とともに目指していきます。これからもさまざまな健康づくり事業へご参加くださいますようお願い申し上げます。

Lecture

スーパーバイザー委嘱記念講演会

【4月30日（日）午前10時30分～垂水市文化会館】



1 講師／大石充教授 2 講師／牧迫飛雄馬教授 3 座長／垂水中央病院竹中俊宏院長

11ページで取組に関する記者会見の様様をご紹介しましたが、当日会場にいたお二人の方から取組に対する期待の声をいただきましたので、ご紹介いたします。

子どもたちの健康を守りたい。 (吉國幸宏)

私が以前赴任していた小学校で小児の高血圧や糖尿病などの生活習慣病に悩む子どもがいました。小児の生活習慣病は、その時は命への影響はないかもしれませんが、大人になってから生活への影響が懸念されます。また、子どものうちから生活習慣病などの悩みを抱えることで、物事に意欲的に取り組めなかったり、自信が持てず、何でも諦めてしまうなど、子どもたちの気持ちにも影響を及ぼし



Profile / 吉國幸宏さん
鹿屋市出身 (51歳)
垂水市立新城小学校の教頭

かねないと考えています。記者会見において、大石先生が、他の地域で小中学校の健康状態についてデータベース化したものを解析する仕事も担っていたと聞きしました。今回の取組でも、高齢者だけでなく、市民の皆さんと健康を考える機会を作りたいと話されていました。学校でも子どもたちを生活習慣病から守るために、食育と生活習慣について考えることを大事にしています。今回の取組で子どもたちの健康状態を把握できて、子どもと保護者が一緒に健康について考えられる機会ができればと期待をしています。

食を通じて元気老人を増やしていきたい。 (深見美智代)

私の家は垂水市の海潟地区でカンパチ養殖業を営んでいます。亡くなった父の介護施設を建てたいという思いと、現在養殖業を営む夫の後押しで、介護施設を立ち上げました。施設では他の介護施設との違いを出すため、カンパチ養殖業者が介護施設をしている強みを生かし、食事にカンパチ料理を提供しています。また、いろいろな方々に協力をもらいながら介護施設でのカンパチを使った食事の充実を図っています。先日の記者会見で今回の取組で「食」の話がでて、私たちのしてきたことは間違いではなかったんだと、とても勇気をいただきました。



Profile / 深見美智代さん
垂水市出身 (59歳)
正信会ほほえみの園長

垂水市特産のブリ・カンパチを健康につなげ、地元水産業の振興と元気老人を増やし、市が活性化すればと、期待をしています。また、私たちが今回の取組のモデルとなるように、協力していけたらと思っています。

平成29年度は、まず「高齢者の健康状態を把握すること(65歳以上の方の健康チェック)」から進める予定となっています。詳しい内容については、随時ご紹介してまいりますので、垂水市が、安心安全でより住みやすいまちであるために、皆様からのご理解とご協力をお願いいたします。